

2021年3月期 第1四半期決算発表に関して、株主・投資家の皆様から質問が想定される内容をまとめました。

決算短信および決算補足資料とあわせてご覧ください。

1. 第1四半期の営業利益が▲52億円と大幅な赤字となっている理由は？

第1四半期は、国内教育事業で新学期にあたり教材の製造原価が増加すること等により、もともと事業構造上、利益水準が低い四半期です。加えて、今期は学校向け教育事業、学習塾・英語教室事業、介護・保育事業等を中心に、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、赤字となりました。

2. 第2四半期の業績の見通しは？

第2四半期累計期間は、前年同期比で減収減益が続く可能性が高いものの、第1四半期の営業赤字は構造的な要因も大きいとため、第2四半期累計期間は営業損益が改善する可能性が高いと考えています。

3. 「進研ゼミ」及び国内「こどもちゃれんじ」事業の状況は？

4月会員数は対前年+3.3%と好調にスタートしましたが、第1四半期の延べ在籍数は、活用率の向上により継続率が上がっていること等により引き続き好調に推移しており、対前年+5.2%と4月会員数の伸びを上回っています。

4. 学校向け教育事業及び学習塾・英語教室事業の状況は？

第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校や学習塾・英語教室の営業自粛に伴い、前年同期比で大幅な減収減益となりましたが、緊急事態宣言解除後は、回復基調となっております。

5. 中国「こどもちゃれんじ」事業の状況は？

中国での事業は、決算日が12月末日です。第1四半期（1～3月期）は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出ていますが、第2四半期（4～6月期）は新型コロナウイルス感染症の事業影響は縮小する見込みです。

6. 介護・保育事業の状況は？

第1四半期（4～6月期）は、新型コロナ感染症の影響により、営業活動を縮小していた影響が出ていましたが、7月からは徐々に営業活動を再開しています。

7. ベルリッツ事業の状況は？

Berlitz Corporation は決算日が12月末日です。

新型コロナウイルス感染症の影響は、第1四半期（1～3月期）は限定的でしたが、影響が大きくなる4月以降が第2四半期に該当するため、語学教育事業におけるランゲージセンターの一時閉鎖、及び ELS 事業（留学支援事業）における米国の大学キャンパスの閉鎖に伴う営業活動停止等により、第2四半期（4～6月期）に前年同期比で減収減益が拡大します。

8. 通期の業績見通しを発表しない理由を教えてください

通期の業績については、新型コロナウイルス感染症による影響を、現時点で適切かつ合理的に算定するのが困難なため、未定としています。

国内教育事業においては、「進研ゼミ」は好調なもの、小中高校の夏休み期間の短縮や2学期以降の予定等、学校現場での試行錯誤が続くことから、学校向け教育事業や学習塾・英語教室事業への影響が読み切れません。また、介護・保育事業においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止に最優先で取り組むなか、営業活動の見通しを立てることが困難であるといった状況が続いています。さらに、すべての事業において、新型コロナウイルス感染症の今後の拡大によってはあらたな事業活動の縮小のおそれがあります。

9. 配当方針に変更はないのか？

来期以降の業績回復を見据え、50円の配当を維持する方針に変更ありません。

以上